

## 第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月16日(木) 5校時  
児童数 男子3名 女子5名 計8名  
指導者 岩崎 健

- 1 単元名 場面をくらべて読もう
- 2 教材名 一つの花(光村図書 4年下)  
補助教材名 おりづるの旅(PHP研究所)

### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童はこれまでに、3年上「きつつきの商売」で「場面」という言葉に出会い、3年下「ちいちゃんのかげおくり」で、「場面の移り変わり」を考える学習をした。4年上「三つのお願い」では、場面ごとの登場人物の気持ちを音読で表現する学習をしている。また、「白いぼうし」では、登場人物の様子、場面の情景描写、表現の特徴に気をつけながら読み、補助教材を使用して読み比べながら、読みとりを深める学習をしてきている。これらの学習を通し、子どもたちは、登場人物の気持ちや場面の様子について大事な言葉を見つけながら叙述を基に読みとったり、音読を工夫したりすることができるようになってきている。

NRTの結果を見ると、「読む」領域の正答率は75%で、全国の正答率59%を上回っており、中領域「叙述を基に場面を想像して読むこと」「中心を押さえて読むこと」「様子がわかるように声に出して読むこと」は、いずれも全国の正答率を上回っている。

また、本校の国語科アンケート結果によると、「国語の学習がとても好き」または「まあまあ好き」と答えた児童は7名となっており、国語科の学習を好きな児童がほとんどである。読書についての様子を見ると、いろいろな種類の本を読んでいるかについては「とても」と答えた児童は2名と少なく、読書量はそれほど多くはない。このような児童の実態から考えると、いろいろな本を読みたいという意欲を高めさせ、読書生活がより豊かになるようにする必要があると考える。

#### (2) 教材について

小学校学習指導要領における第三学年及び第四学年、「C読むこと」の目標は「(3) 目的に応じ内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。

本単元は、キーワードに気をつける読み方を知り、場面を比べながら登場人物の様子や気持ちを読み取り、戦争をテーマにした作品の世界に迫ることをねらいとしている。

本教材は、主人公「ゆみ子」とその両親の戦争中から戦争後までの様子を描いた物語であり、平和への願いと家族愛が主題になっている。物語の前半の場面は戦争中、後半は戦争後という構成になっており前半と後半を対比的にとらえることによって、戦争と平和がもたらすものをとらえることができる。

また、くりかえし出てくる言葉「一つだけ」に着目し、場面による意味の違いを対比的にとらえることで、題名「一つの花」の象徴性に気付かせ、物語の世界に迫っていくことができると考える。

本単元の学習を通して、登場人物と場面の情景を、叙述を基に想像しながら読む能力を習得させ、読みの視点とキーワードを手がかりとしながら自分の感想をもつ力を育てたい。また「一つの花」と補助教材を読み比べて共通点を見つけたり、自分の考えをまとめたりしながら戦争や平和に対する考えを深めさせたい。さらに、日常の読書活動においても習得した読み方を活用して読書の幅を広げていこうとする態度を育てていきたい。

#### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、つかむ段階で、戦争を題材にしたビデオを見たり「ちいちゃんのかげおくり」の読み聞かせをしたりしながら、戦争の時代を想像させ、関心をもたせる。また、戦争をテーマにした本を読むことと、感想交流会を行うという目的意識をもたせる。たしかめる段階では叙述を基に場面の情景や登場人物の気持ちを想像できるよう、教科書にサイドラインを引き、書き込みをさせる。書いたことは全体で交流させながら、自分の考えを深めることができるようにさせたい。さらに、読み

の視点「戦争時代の様子・あらすじ」「登場人物の様子と気持ち」「題名とキーワードの言葉」に着目させながら読み取ったことをまとめさせる。また、「一つだけ」に込められた家族の気持ち、題名「一つの花」について思ったことを自分なりにまとめ、話し合うことができるようにさせたい。戦争をテーマにした本を並行読書する際には、教室にコーナーを設置して環境を整え、ブックウォークの取り組みも通して読書に取り組みながら本教材との共通点を見つけたり、戦争や平和について自分なりの感想をもったりすることができるようにしていく。

ひろめる段階では、「一つの花」の学習で習得したことを生かしながら補助教材「おりづるの旅」を読み、感想交流会での発表用シートに自分の考えを視点に沿ってまとめさせる。感想交流会では、「戦争時代の様子・あらすじ」「登場人物の様子や気持ち」「題名とキーワード」、さらに「名場面」についての交流を行う。交流しながら、自分の読み取りと比べたり、共通点を見つけたりしながら自分の読み取りを見つめ直すことができるようにする。そして、子どもたちなりに戦争と平和についての考えを深めることができるようにさせたい。

また、他の戦争をテーマにした作品を読もうとする意欲を高め、読書の幅が広がるように指導していきたい。

#### 4 単元の目標及び評価規準

##### (1) 単元の目標

- 戦争をテーマにした本を読書する目的をもち、進んで本を選んだり人物の心情を想像したりしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎場面の情景や登場人物の様子について叙述を基に想像しながら読むことができる。(読むこと・ウ)
- ◎「一つの花」と補助教材の読み取りや並行読書を生かして、戦争と平和について自分なりの考えをもち友だちの考えと比べることができる。(読むこと・エ)
- 時代背景等を理解するために、必要な語句を増すことができる。(言・エ(ア))

##### (2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
戦争をテーマにした本を読書する目的をもち、進んで本を選んだり人物の心情を想像したりしようとしている。	場面の情景や人物の様子について叙述を基に想像しながら読んでいる。(ウ) 読み取った内容について自分の考えをもち、友だちの考えと比べながら考えをまとめている。(エ)	戦争の時代を理解するために、必要な語句を増している。(言エ(ア))

#### 5 指導と評価の計画(指導時間10時間)

段階	時間	おもな学習活動	評価規準(おおむね満足できる状況)
第一次 つ か む	2	1 「一つの花」の全文を読み、学習のめあてをもつ。  (1)・全文を音読し、初発の感想をノートに書いて発表し合う。 ・新出漢字、語句の練習をする。 (2)・読み聞かせを聞いたり、ビデオ鑑賞をしたりしながら、戦争をテーマにした作品の感想をもつ。 ・読みの視点を話し合っ設定し、学習計画・読書計画(並行読書、ブックウォーク)を立てる。	<b>関</b> 戦争中の様子に関心を持ち、感想を書いたり、発表したりしようとしている。 [発言・ノート・観察] <b>読</b> 戦争中の様子や登場人物の様子を想像しながら自分なりの感想をもち、ノートに書いている。 [発言・ノート] <b>言</b> 新出漢字の読み方や語句の意味について理解している。[ノート]

第二次  た し か め る	6	<p>2 場面の様子と登場人物の様子を読み、視点に沿って読み取る。</p> <p>(1) ゆみ子が最初に覚えた言葉と、戦争中の様子について読み取る。</p> <p>(2) 高い高いをする父親のゆみ子に対する行動と思いを読み取る。</p> <p>(3) 戦争に行く日の父と、それを見送る母の様子や気持ちを読み取る。</p> <p>(4) 一輪のコスモスの花に託した父親の様子や思いを読み取る。</p> <p>(5) 戦争中と戦争後十年の暮らしを比べて、母親とゆみ子二人の暮らしを読み取る。</p> <p>(6) 題名「一つの花」について、自分の考えを交流し合う。</p>	<p><b>関</b> 場面の情景や人物の様子を叙述を基に想像しながら読みとろうとしている。 [発言・観察]</p> <p><b>読</b> 叙述をもとに両親の気持ちを想像しながら読みとっている。 [発言・教科書・ワークシート]</p> <p><b>読</b> 戦争中の場面と比べることで、戦後の平和な生活について読み取っている。 [発言・教科書・ワークシート]</p> <p><b>読</b> 読み取ってきたことを振り返りながら、題名にこめられた思いを感じ取り、自分の考えをもっている。 [発言・ワークシート]</p> <p><b>言</b> 語句に着目しながら意味を調べ、言葉の使い方を理解している。</p>
第三次  ひ ろ め る	2  <b>本時</b>	<p>3 補助教材「おりづるの旅」を読み感想交流会を行う。</p> <p>(1) 「おりづるの旅」を読み、視点に沿ってシートにまとめたことを交流し合う。</p> <p>(2) 「おりづるの旅」の「名場面」について、自分の考えをワークシートにまとめ、感想交流会を行う。</p>	<p><b>関</b> 戦争をテーマにした作品に関心を持ち、自分の感想をもって感想を交流しようとしている。 [発言・観察]</p> <p><b>読</b> 習得したことを生かしながら作品を読み取っている。 [発言・観察]</p> <p><b>読</b> 作品を読み取る視点や題名についての自分の感想をもち、友だちの考えと比べている。[発言・観察]</p> <p><b>言</b> 紹介シートに書き表すために必要な語句を理解し、表現している。 [発言・ワークシート]</p>

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

#### 【読むこと】

・「おりづるの旅」の自分の読み取りと、友だちの読み取りを比べながら共通点を見つけたり、感想をもったりしながら交流し、自分の読み取りを深めることができる。

### (2) 授業仮説

#### ○仮説2 『単元における読む目的を明確にした学習活動をする。』に関わって

・作品を読む視点「戦争時代の様子・あらすじ」、「登場人物の様子と気持ち」、「題名とキーワード」と「名場面」に沿って他の戦争作品を読み、感想を交流し合うことで、自分の読みをさらに深めることができるであろう。

**【活用2】**

### (3) 展開

段階	学習内容とおもな学習活動	・教師の支援 〇 仮説に関わる主な支援 <b>評</b> 評価
つかむ 5分	1 学習のめあてを確認し、前時の学習を想起する。  2 本時の学習課題を確認する。 「おりづるの旅」の「名場面」について語り合おう。	・前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・学習課題を一斉読し、課題をつかませる。

<p>た し か め る</p> <p>25分</p>	<p>3 本時の学習の進め方について確認する。</p> <p>4 一人学びで「名場面」の読み取りを行い、ワークシートに記入する。</p> <p>5 「名場面」について発表し合い感想を交流し合う。</p> <p>6 自分と友だちの読み取りとの共通点や違いを見つけ、ワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の進め方について確認するとともに、「一つの花」の「名場面」を交流した学習を想起させる。</li> <li>・発表を聞く際は、メモをとってもよいことにする。</li> <li>・「名場面」だと考えた根拠をしっかりとせながらワークシートに記入させる。</li> <li>・「名場面」について発表する際、その場面を音読でも紹介させる。</li> </ul> <p><b>仮説2に関わるおもな支援</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの発表を聞きながら自分の考えとの共通点や違いを見つけ、感想をワークシートに記入して交流することができるようにさせる。</li> </ul> </div> <p><b>評</b></p> <p><b>&lt;おおむね満足できる状態B&gt;</b></p> <p>友だちの発表を聞き、自分の考えとの共通点や違いを見つけたり、感想をもったりしながらワークシートに書くことができる。</p> <p>○Cの子への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シートの視点に沿って自分の感想を振り返らせながら、友だちとの共通点を見つけさせる。必要に応じて共通点を指摘しながら理解させる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(発言・観察・ワークシート)</p>
<p>ま と め る</p> <p>15分</p>	<p>7 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、分かったことや感想を発表し合う。</li> </ul> <p>8 まとめの音読をする。</p> <p>9 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、感想をシートに書いて発表する。</li> </ul> <p><b>評</b> 本時の学習で分かったこと、感想をシートに書くことができたか。 (観察・発言・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ「名場面」を音読する。</li> </ul>

7 板書計画

課題 「おりづるの旅」の感想を交流しよう。

Aグループ

Bグループ

様子  
あらすじ

登場人物について

題名とキーワードについて

自分の考えとにているところ・ちがうところ・分かったこと

交流のまとめ

- ・ 同じ本を読んでも、感じ方や読み取り方のちがいがあるということが分かった。
- ・ 戦争によって多くの人々が悲しんだけれど、それを乗り越えて努力してきた人たちがいる。
- ・ おりづるには、さだ子の願いと、地球全体が平和であることへの願いが込められている。

主題 悲しみを乗り越えて生き続ける人間の強さと美しさ

戦後	戦時中	戦時中	構成
<p>十年後のゆみ子と母親の様子</p>	<p>戦争に行く日のゆみ子一家とゆみ子に一つの花を託して出征していく父</p>	<p>ゆみ子を守る両親の嘆き</p>	<p>小見出し 戦争中の様子</p>
<p>三</p>	<p>二</p>	<p>一</p>	<p>場面</p>
<p>・それから十年の月日がたちました。          ・ゆみ子はお父さん顔を覚えていません。自分に……しらないのかもしれない。          ・とんとんぶぎの小さな家は、コスモスの花でいっぱい包まれています。          ・そこからミシンの音が速くなったり、遅くなったり、何かお話をしているかのよう          ・「母さん、お肉とお魚どっちがいいの。」          ・「買った物をさげたゆみ子が、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。」</p>	<p>・あまりじょうぶでないお父さんも戦争に……。          ・お母さんの……かばんには……包帯、お薬……大事なお米で作ったおにぎりが……。          ・「一つだけちょうだい、おじぎり、一つだけちょうだい。」          ・駅までに着くまでにみんな食べてしまいました。          ・お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのです。          ・「ゆみ。さあ、一つだけあげよう……大事にするんだよ。」          ・お父さんはそれを見て一つの花を見つめながら――          ・「ゆみ。さあ、一つだけあげよう……大事にするんだよ。」          ・それから十年の月日がたちました。          ・ゆみ子はお父さん顔を覚えていません。自分に……しらないのかもしれない。          ・とんとんぶぎの小さな家は、コスモスの花でいっぱい包まれています。          ・そこからミシンの音が速くなったり、遅くなったり、何かお話をしているかのよう          ・「母さん、お肉とお魚どっちがいいの。」          ・「買った物をさげたゆみ子が、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。」</p>	<p>・「なんてかわいそう……。一つだけちょうだいと言えはなんでももらえらると思          っているのね。」          ・お父さんが深いため息をついて言いました。          ・「この子は、一生……。両手を出すことをしらずにすくすくもたないね。          一つだけのにぎり飯、一つだけのかぼちゃのにつけー。みんな一つだけ。一つだ          けの喜びさ……。どんな子に育つんだろ。」          ・そんなとき、お父さんは決まってゆみ子をめちやくちやに高い高いするのです。</p>	<p>・「一つだけちょうだい。」          ・ゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉……。          ・まだ戦争の激しかったころ          そのころは、おまんじゅうだの、キャラメルだのチョコレートだのそんな物はあ          りませんでした。食べるものといえば、ありませんでした。          毎日、敵の飛行機が飛んできて、くはいになっけいきました。          ・ゆみ子は、……もつともつとくいくらでもほしがるのでした。          ・「じゃあね、ひとつだけよ。」一つだけー。ひとつだけー。          ・お母さんの口ぐせを覚えてしまったのです。</p>
<p>・とんとんぶぎ          ・包まれて          ・そこから          ・ミシンの音          ・お肉とお魚と          ・スキップしながら          ・コスモスのトンネル</p>	<p>・戦争に行かなければならぬ          ・防空頭巾          ・包帯、お薬、配給の切符          ・大事なお米          ・ばんざい          ・たえず勇ましい軍歌          ・兵隊          ・いよいよ          ・ぶいと          ・はしつぽ          ・わすれられたように          ・あわてて          ・一輪          ・一つだけのお花</p>	<p>・深いため息          ・みんな一つだけ          ・そんなとき          ・めちやくちやに</p>	<p>着目させたい語句と          言語事項          ・一つだけ          ・くだの、くだの          ・おやつどころではありません          ・でした。          ・配給          ・ばくだん          ・いつもおなかをすかしていた          ・のでしょうか。          ・口ぐせ</p>